

# しが国際協力親善大使レポート

はまなか まこと  
濱中 誠さん

隊次：2015年度2次隊

職種：日本語教育

派遣国：モロッコ

## 自己紹介

みなさん、こんにちは。私は、モロッコのモハメッド5世大学で日本語教師をしている濱中誠です。これまで、大学などで、留学生に日本語や日本文化を教えたり、日本人の学生にレポートの書き方を教えたりしてきました。通勤の電車の中で「僕たちにできることは必ずある」というJICAボランティア募集の中吊り広告を見て、私のできることで誰かの役に立ちたい、喜んでもらいたいと思い、挑戦することにしました。

## 活動している国、地域の気候や文化の紹介

モロッコはアフリカの北西部に位置し、北は地中海、西は大西洋に面しています。東部のアトラス山脈では冬になると雪が積もります。南部にはサハラ砂漠が広がっています。

私が活動しているラバトはモロッコの首都で、おおよそ北緯34度ですから、滋賀県より少しだけ南に位置します。地中海性気候のため、冬は雨が降りますが、夏は乾燥した心地よい晴天が続きます。

ムスリム（イスラム教徒）の国ですが、ヨーロッパにも近く、様々な文化が融合しています。



ハッサン II 世の塔



ラバトの夕景

## 活動や生活について

### ○モロッコの日本語教育の歴史

私の活動は、国立のモハメッド5世大学が開催している公開講座の運営を行うことです。モロッコと JICA ボランティアとの関係は今年で 50 年になります。これまで多くのボランティアによって、モロッコの様々な分野における発展が支えられてきました。日本語教育も例外ではありません。

1982 年に国際交流基金によって、モハメッド5世大学で日本語講座が開かれました。これがモロッコの日本語教育の先駆けです。国際交流基金による講座は 2005 年まで続きましたが、その後を JICA ボランティアが引き継いでいます。

### ○モロッコの日本語教育の現状

2016 年は、5 レベル 7 クラス、125 名の学生さんに、日本人講師 2 名、モロッコ人講師 3 名が分担協力して日本語を教えました。2017 年は、5 レベル 6 クラス、126 名の学生さんに、日本人講師 1 名、モロッコ人講師 2 名が分担協力して日本語を教えています。

モロッコでは、日本のアニメやマンガ、映画などへの興味から日本語を学びたいという希望も多いです。日本の社会問題について議論したり、日本の文化を学ぶためにミュージックビデオを見たりして楽しく学んでいます。授業のほかには、モロッコ全土の日本語学習者を対象にしたスピーチコンテストや、日本語能力試験の運営にも協力しています。



学生さん

## ○モロッコの日本語教育の将来のために

モロッコの学生さんは、非常に言葉の習得に優れています。ラバトではアラビア語モロッコ方言（ダリジャ）が多く使われていますが、小学校からフランス語を学び始め、民族語としてのアラビア語やベルベル語も話します。英語やスペイン語を話せる人も多く、さらに、日本語ばかりでなく中国語や韓国語などを学ぶ学生も多いです。

しかし、日本語の先生がなかなか育ちません。公開講座であるために、受講生が高校生から社会人まで幅広いこと、そのため授業時間が限られてしまうことなどから、才能があっても上達するのに時間がかかってしまうのです。

本講座は、現在、大学が開講している公開講座という位置付けですが、今後は正式な科目にしていきたいという大学の意向もあり、大きな変革期を迎えています。カリキュラムや指導法の改革も必要となるため、JICA 事務所の協力を得ながら取り組んでいますが、非常に難しい問題です。

2017 年は、最上級のクラスで、日本語教授法の授業を取り入れることにしました。これは、今後、モロッコ人の手で講座の運営ができるようにするためのひとつの試みです。単に授業テクニックを磨くというものではなく、講座全体を俯瞰してシラバスを考え、学びたいと思っている学生のニーズを満たすために教師はどのような役割を果たさなければならないか、というようなことについて、ディスカッションしながら学んでいます。



書き初め



百人一首